平成 30 年度岩手県政策評価委員会

（開催日時）平成 31 年２月 12 日（火）10：00～10：40
（開催場所）エスポワールいわて　３階特別ホール

１　開　会
２　あいさつ
３　議　事
（１）平成 30 年度政策評価等の実施状況及び各専門委員会の開催状況について(報告)
（２）平成 30 年度政策評価結果等の政策等への反映状況について（報告）
（３）その他
・いわて県民計画（2019～2028）の概要（情報提供）
４　閉　会

委員
加藤徹委員長、吉野英岐副委員長、秋山信愛委員、石川奈緒委員、泉桂子委員、
遠藤一子委員、小野澤章子委員、工藤昌代委員、越谷信委員、島田直明委員、
西田奈保子委員、松山梨香子委員、山本清仁委員

１　開　会
〔事務局から開会宣告〕

２　挨　拶
〔小野政策地域部副部長兼政策推進室長から挨拶〕
〔事務局から委員 20 名中 13 名の出席により会議が成立する旨の報告〕

３　議　事
（１）平成 30 年度政策評価等の実施状況及び各専門委員会の開催状況について（報告）
○竹澤政策推進室評価課長　それでは、議事に入りたいと思います。
議事の進行につきましては、条例の規定によりまして加藤委員長にお願いいたします。

○加藤徹委員長　それでは、委員長を仰せつかっております加藤でございます。よろしくお願いいたします。
年度末が限りなく近づいている中、先生方には御多忙のところ時間を割いて、お集まりいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。
ところで、平成 30 年度の評価委員会におきましては、それぞれの専門委員会で精力的に御審議いただき、専門委員会の議決をもって評価委員会の議決とさせていただいて、それぞれに答申させていただいているところでございます。
今日の議題は、１つ目には専門委員会等の開催状況について、それから２つ目はそれらの答申の内容等が政策等にどのように反映させていただいたか、これらにつきましては、

事務局のほうからこの後御報告いただきますので、委員の皆様にはそれらの内容につきまして御確認いただきますようお願いしまして、簡単ですが、挨拶とさせていただきます。
それでは、早速議事に入らせていただきますが、座って進行させていただきますので、よろしくお願いします。
議事の１つ目として、平成 30 年度政策評価等の実施状況及び各専門委員会の開催状況についてということで、事務局のほうから御報告いただければと思います。よろしくお願いします。

〔資料№１に基づき説明〕

○加藤徹委員長　ありがとうございました。それでは、ただいまの事務局からの説明につきまして、委員の皆様から御質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

「なし」の声

○加藤徹委員長　それでは、この案件については了承ということにさせていただきたいと思います。

（２）平成 30 年度政策評価結果等の政策等への反映状況について（報告）

○加藤徹委員長　では、引き続いて議事の（２）、平成 30 年度政策評価結果等の政策等への反映状況について、これも事務局の方から御説明をお願いします。

〔資料№２に基づき説明〕

○加藤徹委員長　ありがとうございました。それでは、ただいまの事務局からの説明について、何か御質問等ございませんでしょうか。ございませんか。
私のほうから、先ほど御説明いただきました中で公共事業評価の部分で、ここの（２）の継続評価で、一時休工等が出てきており、その中で農林水産部と県土整備部に分けられて、農林水産部のほうにつきましては、評価結果がＡＡあるいはＡという評価で、Ｂ、Ｃの評価は全くないのに、一時休工せざるを得ない理由は、この場で分かりますのでしょうか。個票を見させていただきますと、林業関係と漁港関係の整備のところで一時休工という案件が入っていますが、これについて教えていただければありがたいと思っています。

○菊地農林水産企画室主任主査　農林水産部でございます。
御指摘のとおり一時休工ということで、個票にございますとおり林道整備事業が３事業、漁港整備事業が１事業となっております。評価結果がＡ以上となっており、事業としてはそういう状況にありますが、希少動植物、猛禽類の調査を行わなければならないとか、あるいは同じところで災害復旧工事をやっておりまして、それとの調整により、来年度は災害復旧工事をまず優先的に実施するためなどの理由でございます。

○加藤徹委員長　ありがとうございました。こういうときに、注釈みたいなところに今御説明いただいたようなコメントみたいなのを１行ぐらいつけておいていただいておくと分

かりやすいのかなと思った次第でございます。ありがとうございました。

○菊地農林水産企画室主任主査　その件は、また政策推進室と相談していきます。

○加藤徹委員長　はい。
　ほかにございませんでしょうか。よろしいですか。

　「なし」の声

○加藤徹委員長　では、２番目の議題についても委員の皆様に御了解いただいたということにさせていただきます。

（３）その他
・いわて県民計画（2019～2028）の概要（情報提供）

○加藤徹委員長　それでは、議事の（３）、その他といたしまして、いわて県民計画（2019～2028）の概要について、これもまず事務局のほうから御説明お願いしたいと思います。

〔参考資料に基づき説明〕

○加藤徹委員長　ありがとうございました。
　それでは、ただいまの御説明について何か御質問等ございませんでしょうか。委員の皆様にも事前にメールでいわて県民計画の概要ということで配付されていたかと思いますが、何かございませんか。
　これは、今月末から始まる議会にかけられる予定なのですね。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　そうです。明日２月県議会が招集され、その中で次期総合計画に係る特別委員会も設置されておりますので、そちらで知事も含めて、集中的な審議をいただきまして、その上でこういった総合計画など県民にかかわる深い計画については、県議会の議決を経ることになってございまして、県民計画については当然その対象となります。県議会２月議会において承認議案を提案いたしまして、議会で御審議いただき、できれば承認いただきたいという予定でございます。

○加藤徹委員長　ありがとうございます。
　何か御質問、御意見ございませんでしょうか。議会にかける案を今時点で修正するというのは難しいところもあろうかと思いますが、御意見だけでもいただければと思います。
　もしなければ、自分は岩手県民ではありませんので、よそ者の視点になるのですが、それで勝手な意見になってしまうかもしれないのですけれども、今回のこの計画を事前に見させていただきまして、まず非常に感心しましたのは、先ほど課長さんからも御説明いただきましたように、10 の分野を整理していただいて、その中で岩手の強み・チャンス、それと相反する弱み・リスクということで、それぞれの分野についてきちんと整理されておりまして、読ませていただいたときに非常に分かりやすいなという感じを受けました。

ただ、総合計画をつくられますときに、何といいましても人口減少予測化、多分岩手県でも 2040 年ごろには 100 万人を割るだろうと、つい最近山形県の人口が仙台市の人口を下回ったというニュースも流れておりますが、いずれ岩手県の人口もややそういう形に、近いうちになってくるのかなと、そういう状況があります。

それから、ＡＩの急速な進化といいますか、これがどこまで急速に進化するのか、そのＡＩのメリット、デメリットみたいな、今時点で予測することは非常に困難だと思うのですが、そういう状況もあると思います。

さらには、我々も 30 年度の現地調査で、東芝メモリ進出ということで浄化槽新設予定地である北上市周辺の現地等を見させていただきますと、あの周辺は産業が非常にいい形でたくさん集積しているのではないかと感じました。そういう地域と、今回総合計画で４つの地域に分割して整理されております他の地域とで、どうしても地域格差みたいなのがあって、この総合計画の取りまとめにつきましては、それにかかわられた方々は大変御苦労されたのではないかと思っております。そういう意味では、関係者の皆様に深く敬意を表したいというふうに思っております。

それで、先ほど御紹介ありましたように、「岩手の幸福に関する指標」研究会の座長、それから岩手県総合計画審議会の委員として、この計画に参画されました吉野先生、よければ苦労された点、御感想などでも御披露いただければありがたいと思います。

○吉野英岐副委員長　御指名いただきまして、ありがとうございました。

「岩手の幸福に関する指標」研究会の委員は、平成 28 年度から務めさせていただいたのですけれども、総合計画審議会の委員は、次期総合計画の検討の途中から務めてさせていただいていますので、私はそんなに力を尽くすことはなかったのですが、幸福研究会は、これまでのさまざまな政策が本当に個人の福祉の向上や、幸せ感の実感にどれだけ届くのだろうかというのがありまして、供給側としては、政策を立てるほうとしては最大限やっているはずだと思うのですが、受けとめ側がそれを本当に実感できるような状況になっているかということが少し問題というか、疑問があって、そういったことを含めて、いわゆる主観的な幸福感をどこまで高めていけるかということを客観的に担保するという、両方の領域をつなぎ合わせていくような考え方あるいは政策の打ち出し方について、県庁の方々と一緒に、委員の皆様の一緒に御議論をさせていただきました。

その結果、主観的な指標については、県が大規模な調査は毎年なさっているということで、その調査の中に項目を入れ込んでいただいて、5,000 人規模の調査で毎年はかっていき、統計部門の中できちんと分析していただいたデータを客観的データとつなぎ合わせて考えていくということを１年半ぐらいさせていただきました。

苦労というか、非常に楽しい作業で、いろいろアイデアを出せるところでしたので、そういって出したアイデアを、今度は、総合計画にどう反映していくか、そこのつなぎ合わせを県庁のほうで御苦労していただいたというふうに感じております。従来型の総合計画とは一味も二味も違うような形で、前回の総合計画審議会でも、副知事のほうから、これはもしかすると非常に先進的な、革新的な総合計画になるのではないかというような期待の言葉もいただきましたので、これはこの後議会で承認があるわけですけれども、それを承認していただけるのであれば、実際こういった新しいやり方を 10 年間進めていくという

ことで、私としては、答申を出した側としては大変期待しておりますし、今度答申を受けて審議している、総合計画審議会の委員としても実現していかなくてはいけないかなと思っているところでございます。

○加藤徹委員長　ありがとうございました。本当に先生をはじめ、大変御苦労されたと思うのですが、今日配付していただいた資料の中の下に 10 ページと書いてある、新しい時代を切り拓くプロジェクト、その１番目にＩＬＣプロジェクトという表現で書かれている。これは間違いではないのですが、一般県民からは、このＩＬＣに注釈で用語解説などは必要ないのか、県民の皆さんはそれで御理解いただけるのか、今回の総合計画の中で、これは造語なのかもしれませんが、11 ページのところに「健幸」という漢字、それから 11 番目の「人交密度」という非常に画期的な表現のような感じもしますし、子供さんがこの漢字を覚えて、試験のときにこう書かれると困るなという少し不安もあるのですが、ここは下に注釈をつけていただいていますので、ＩＬＣのところも何か必要ないのかなという印象を受けました。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　事務局から御説明します。ＩＬＣにつきましては、今日説明資料で使いました概要に注釈がございます。本体の方には、本文の中で、国際リニアコライダー（ＩＬＣ）と書いてありますし、岩手県の中ではＩＬＣについてはさまざま報道も含めて話題になっておりますので、御理解いただける方も多いのかなと思っておりますが、いずれも県民の皆さん、特にお子さんにわかりやすいような表現、これから計画について、本体も年度明けになりまして、カラー版といいますか、お配りする版、それから概要版等も作っておりますので、そこでは特に県民の皆さんに伝わりやすいといったことを特に意識しながら作って参りたいと考えております。

○加藤徹委員長　ありがとうございました。余計なことを話しまして申しわけございません。

ほかに御質問、御意見等ございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

○工藤昌代委員　これそのものにというか、今ＩＬＣプロジェクトに関しては、日本学術会議ですが、かなりセンセーショナルなというか、私たちにとってはあそこを否定するのだというような発表がなされたこともあって、この先どんな形で実現されるのかというのがいろいろ考えるところではあると思うのですが、県としてはやはりそこを誘致できるような形で推進されていくし、県民の理解や県外の方たち、学術関係の方たちの理解も必要なのだろうなと思います。

プロジェクトとしてやりつつも何を言っていいのかよくわからないのですけれども、ぜひ実現するべくプロジェクトとして、県がこの先 10 年を見据えたことということで掲げている中で、確実はないとは思うのですが、確実にそのところに行けるように推進していただけるといいなというふうな意見というか、感想でございました。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　１点だけよろしいでしょうか。

○加藤徹委員長　はい、どうぞ。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　今工藤委員からＩＬＣにつきましてお話いただきました。

新聞報道等で日本学術会議で否定的とも受け取れるような報告がなされておりまして、ただ一方で学術的な価値については、会議の中で評価をいただいております。

一方で、国際間の費用負担なども考える中で、必ずしも推進すると言うには至らないといったような報告がなされているようでございますが、これはあくまでも学術会議として取りまとめいただいた報告書でして、現在はそこから政治的判断に移ってきております。

一つのタイムリミットが３月７日でございまして、日本政府としてこのタイムリミットまでに何らかの意思表示を行う必要があるといったことです。そこで、例えば政府として重要な関心を持っているというようなプラスの表現が含まれれば、そこから国際的な費用負担等も含めて、次の段階に入って議論することができるといったことですので、必ずしも今の段階で、国としてやりますということではなくて、そういったこれから前に進める準備が、あるいは覚悟が国としてできていますという表現をぜひいただけるように、県としても関係機関と一緒になってさまざまな働きかけを行っているところですので、いずれ３月７日に向けて、引き続き注視いただければと考えています。

○加藤徹委員長　よろしいでしょうか。

○工藤昌代委員　はい。

○加藤徹委員長　ほかにございませんでしょうか。

島田先生、どうぞ。

○島田直明委員　県民計画で、幸福というのが一つ新しい尺度として出されたというところは、個人的にはすごく先進的な、先を見ているなと思ったのですけれども、一方で報道等でもありましたけれども、分かりにくさというのがあるのではないかということが気になっているというところです。そういう報道を見聞きしている学生とこういう話をすると、幸福というのでごまかされているのではないかと、例えば人口減少であったりとか、賃金であったりとか、そういう問題が悪くなっているにもかかわらず、幸福度が上がるから、いつの間にか良くなっているように見えてしまうのではないかというところが、報道でも恐らくそういうような視点で書かれていたような気がしますけれども、分かりにくさというところがあるというところがあるのかなというのが懸念しています。

○加藤徹委員長　それでは、事務局のほうからお願いします。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　まさにさまざま議論、地域も含めて議論いただ

く中で、幸福という一つのテーマ、どうしても抽象的な印象を受けてしまうといったことはございます。

一方で、本日は本体はございませんけれども、政策推進プラン（案）を見ていただきますと、幸福体系の 10 の政策分野に向かうためにどのような取組を行うのか、先ほども御説明いたしました幸福関連指標において、客観指標を設定し、そのために何をやるのかといったものをさらに下の具体的推進方策を設け、そこについても具体的推進方策指標を設けております。

御説明する中では非常に大きな話である幸福から県の、あるいは多様な主体の取組としての政策、そこにきちっとつながるような形で御説明をしていくことが重要と考えておりますので、今島田先生の方からお話しいただくようなところにも十分に気をつけながら、一緒に取り組んでいくために、県民の皆さんの御理解いただくことが重要と考えておりますが、そこは工夫して参りたいと思います。

○加藤徹委員長　ありがとうございます。

越谷委員どうぞ。

○越谷信委員　今島田先生がおっしゃられた話とも少し関連する質問ですけれども、私は大規模事業評価の専門委員会に所属してございますけれども、そのときに個別の事業を見ているわけではでございますが、こちらのプランは上位のプランだと思いますので、それと個別の事業がどのような関係になっているか、今おっしゃられた幸福という興味深い概念を導入されるということですから、そういった点がよくＢ／Ｃを考えたとき、お金に換算はできないかもしれませんが、そういった点での重要性なども上位のプランの中での個別の事業の位置づけというのは、必ずしもスタート時点でそうなっているかどうか分からないですけれども、考えていただいて、評価のときに参考にさせていただければと思いますので、お願いを申し上げます。

○加藤徹委員長　事務局のほうから、よろしくお願いします。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　先ほどアクションプランのお話をしましたけれども、その中にさまざまな指標、そしてその下に具体的推進方策を進めるための具体的な事務事業、具体的には平成 31 年度事業も含めて、庁内で検討し、また県議会にお諮りする段階でございます。

特にこの長期ビジョンは、10 年に一度の計画でございますので、そして４年間のアクションプランで来年度予算、そこの関係については、かなり全庁を挙げて組み立て直してございまして、今先生のほうからお話があった具体的な、例えばハード事業も含めて、ロジックを改めて全庁で確認作業を行っておりますので、来年度以降の評価の中で、これについてはしっかりとまた検証いただくような形にして参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

○竹澤政策推進室評価課長　若干補足をさせていただきます。幸福をテーマに掲げており

ますので、主観的な幸福感が当然理念としては上位には来るのですけれども、政策を進める上では客観的指標をベースに目標値を掲げて、その達成状況で政策の効果を把握して、それが県民の主観的な幸福感に本当に寄与しているかどうかというのを単年度はなかなか難しいと思いますので、中期的な視点で確認していく、そういう考えで進めようとしています。

大規模事業評価ですとか公共事業評価については、基本的には効率性ですとかＢ／Ｃで事業の適否を判断していくわけですけれども、それが果たして県民お一人お一人の幸福感にどう寄与していったのかというのは、事後的に確認していくということになるのだろうなとは思っております。

○加藤徹委員長　越谷先生よろしいですか。

○越谷信委員　はい。

○加藤徹委員長　ほかにございませんでしょうか。

はい。

○秋山委員　先ほどの幸福というお話とも関連すると思いますが、政策推進プランの構成ということで、一番先に健康というのはすぐ納得ができますけれども、余暇というのが入っているのが非常に私は興味深く見させていただきました。なかなか余暇まで時間を割けないという方が多い。特に県庁の職員の方はそうだと思うのですけれども、こういうふうな余暇という目標が出たからには県庁の職員は余暇をたくさんとって、趣味に費やす時間をたくさんとらなければいけないということで、いろいろなところで生産性の向上を図るとか、そういうことを県民に要請されるのだろうなというところを予測するわけです。このような取組、生産性の向上や働き方改革などに取り組むことにより、県民の余暇時間が増え、余暇を楽しむ県民が少しでも増えてることを願っています。

○加藤徹委員長　感想としてでよろしいですか。

○秋山委員　はい。

○加藤徹委員長　それでは、ほかにございませんでしょうか。

「なし」の声

○加藤徹委員長　もしなければ、以上をもちまして今回の政策評価委員会の議事を終了させていただきます。委員の皆様には御協力いただきまして、本当にありがとうございました。

それでは、進行を事務局のほうにお返ししますので、よろしくお願いいたします。

４　閉　会

〔事務局から閉会宣告〕